

第1問

大航海時代の開幕した15世紀末以降、西欧諸国は積極的な対外進出に乗り出し、それまで直接の交易関係のなかった地域へも進出を進めたが、これによって世界各地の経済的な結びつきは急速に強まっていき、世界の一体化が本格化することになった。

西欧諸国は自らを中心とした世界的な経済システムに東欧・アメリカ・アフリカなど他地域を組み込んでいき、産業革命の開始された18世紀後半以降にはその動きをいっそう進展させてアジア各地をも従属下に入れ、19世紀には世界中がこのシステムに覆い尽くされる状態が生まれた。こうして世界的な経済システムが成立するのにともない、世界の各地域はそのシステムを構成する部分としての性格を強め、世界的な貿易構造の影響を強く受けるようになった。たとえば、物品の流入により経済的変動が生じることもあり、また、商品の輸出のためにそれに適合した経済的体制が形成されることもあった。

以上を念頭に、16世紀から19世紀半ばまでの期間において、西欧諸国がどのように世界各地を世界的な経済システムに組み込んでいき、またそれによって世界各地がどのような影響を受けたのかについて、論じなさい。解答は解答欄(イ)に16行以内で記し、また以下の9個の語句を必ず1度は使用し、その語句に下線を付しなさい。

アヘン	エンコミエンダ制	カピチュレーション
強制裁培制度	銀	グーツヘルシャフト
砂糖	奴隷	綿布

第2問

歴史上、政治権力にとって宗教をどう扱うかは統治における重要な問題であり、世界各地の政治権力は宗教に対してさまざまな政策を実施してきた。世界各地の政治権力の宗教政策に関する以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(3)の番号を付して記しなさい。

問(1) キリスト教はローマ帝国領内で誕生した宗教であるが、その普及によりキリスト教の持つ意味は大きくなり、帝国によるキリスト教への関わりも積極的なものになっていった。中世の西ヨーロッパにおいても、社会に広く浸透したキリスト教勢力への対処は世俗的権力にとって重要な問題となり、世俗君主はしばしば干渉をはかったが、それによってキリスト教勢力の間で問題が起こることもあった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) ローマ帝国は当初、一部の例外を除いて、さほどキリスト教に積極的に干渉しようとしなかったが、キリスト教の普及を背景として、4世紀に入った頃からローマによるキリスト教への働きかけは大きくなっていった。4世紀におけるローマのキリスト教に対する政策の推移について2行以内で説明しなさい。

(b) 11世紀から14世紀までの、世俗の君主権と教皇権の推移について、両者の関わりに触れながら、3行以内で説明しなさい。

問(2) イランを中心とするササン朝ペルシアには伝統的な信仰に加えて多くの宗教が存在していたが、ササン朝はそれらの宗教に対して様々な対応を使い分けた。また、西アジアから広がったイスラーム勢力は、領内に多数のユダヤ教やキリスト教の信徒を抱えることになったが、イスラーム教がユダヤ教やキリスト教の影響を受けていることもあって、ユダヤ教やキリスト教に対しては他の宗教とは異なる対応をとった。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) ササン朝による領内の宗教に対する政策について、複数の宗教を取りあげながら、3行以内で説明しなさい。

(b) イスラーム教は、ユダヤ教・キリスト教からどのような影響を受け、また両宗教の信仰・信徒に対してどのような姿勢をとっていたか、2行以内で説明しなさい。

問(3) 古代のインドにおいては仏教が生まれたが、その成立以来、古代インドの北部の王朝と仏教との間には密接な関わりが見られた。中国においては、三大思想とも呼ばれる儒教・仏教・道教が時代によって勢力を変えながら政治や社会に影響を与えてきたが、魏晉南北朝時代には、政治的動乱や社会不安を背景に仏教や道教が民間に流行し、また王朝によって保護された。以下の(a)・(b)の問いに、冒頭に(a)・(b)を付して答えなさい。

(a) 古代の北インドの王朝と仏教との関わりについて、3行以内で説明しなさい。

(b) 魏晉南北朝時代における仏教と道教の展開や発展について、3行以内で説明しなさい。

第3問

世界各地の民族は、共有する言語や信仰を基盤として個性的な文化を育んできた。一方で、民族という区分は民族間の対立などの問題を生む原因にもなっている。民族文化と民族問題に関する以下の設問に答えなさい。解答は、解答欄(ハ)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)～(10)の番号を付して記しなさい。

A 世界の各地において、それぞれの民族は多様で個性的な文化を創造し育んできた。世界の民族の文化に関する以下の設問に答えなさい。

問(1) 古代のアテネでは国家行事の際に演劇の競演がなされ、たとえば大規模な国家行事であるディオニュソス神の祭典の際には、4日のうち3日は悲劇、1日は喜劇の上演が行われた。ギリシアの詩人についての以下の選択肢ア～エのうち、誤りを含むものの記号を記しなさい。

ア 悲劇詩人のアイスキュロスは『アガ멤ノン』を制作した。

イ 悲劇詩人のサッフォーは『オイディプス』を制作した。

ウ 悲劇詩人のエウリピデスは『メディア』を制作した。

エ 喜劇詩人のアリストファネスは『女の平和』を制作した。

問(2) 帝政後期のローマでは、社会不安を背景に、キリスト教のほかに東方起源の密儀宗教が民間で流行したが、なかでも牛を殺して血をすするなどの儀式を持つイラン起源のある密儀宗教は軍人や商人の間で多くの信者を得た。この宗教の名を記しなさい。

問(3) インドのヒンドゥー教は多神教であるが、なかでもブラフマー・シヴァ・ヴィシュヌの三大神が最高の神とされる。特にシヴァとヴィシュヌは人々の信仰を集め、7世紀頃から、これらの神へと絶対的な帰依を捧げる宗教的運動が広がった。この運動の名称を記しなさい。

問(4) 9世紀のあるギリシア正教の修道士は、スラヴ人への布教のために文字を作成したが、この文字の作成は現在のロシアなどで使用されているキリル文字の成立にも影響を与えることになった。この修道士の名を記しなさい。

問(5) ジャワ島においては、10世紀から13世紀に存在したクディリ朝の時代などに独自の影絵人形劇の伝統が発展し、インドの『マハーバーラタ』や『ラーマヤナ』に題材をとった劇が上演された。このジャワ島に伝わる影絵人形劇の名称を記しなさい。

問(6) デリー＝スルタン朝やムガル帝国の時代のインドでは、イスラームとヒンドゥーの文化が融合したインド＝イスラーム文化が生まれたが、この文化のうちには後世まで影響を与えたものが少なくない。たとえば、インド北部の口語にペルシア語やアラビア語の語彙が融合して形成された言語は、現在のパキスタンの国語となっている。この言語の名を記しなさい。

B 民族というアイデンティティは、連帯や統合の絆となる一方で、異なる民族との関係において対立や紛争を引き起こす原因にもなっている。民族問題に関する以下の設問に答えなさい。

問(7) チェコ人とスロヴァキア人は、かつてともにモラヴィア王国を構成するなど同系統の民族であったが、モラヴィア王国が東方から襲来したある民族によって崩壊した後、その民族に支配されたスロヴァキア人と、神聖ローマ帝国の影響を強く受けたチェコ人との間に民族的な差異が生じていくことになったと考えられている。モラヴィア王国を崩壊させ、スロヴァキア人を支配下に置いた民族の名を記しなさい。

問(8) 現在、東トルキスタンの主要部は中華人民共和国によって新疆ウイグル自治区とされているが、新疆地方が中国領内に組み込まれたのは清朝時代の18世紀の半ばのことであった。18世紀半ばにジュンガルや回部を討って新疆地方を版図に組み入れた清朝の皇帝の名を記しなさい。

問(9) 現在のトルコ・イラン・イラクにまたがる地域に居住する民族は、約2000万もの人口を持ちながら、オスマン帝国の解体後にこれらの3国の国境によって分断された結果として、それぞれの国で少数民族として抑圧されることになった。中東に居住するこの民族の名称を記しなさい。

問(10) 現在のセルビアとアルバニアにはさまれた地方は、アルバニア人が住民の多数を占めるが、セルビア人にとっても中世の時代に領有していたこの地への思いは強く、ユーゴスラヴィアの解体後にはこの地をめぐる両民族の間で紛争が起こった。セルビアとアルバニアの間に存在するこの地方の名称を記しなさい。